

# 北のとびら

vol. 135

令和7年3月



特集 | 牧野時夫(北海道農民管弦楽団・代表)interview

## 北海道農民管弦楽団 音楽で心を耕す三十年の軌跡

アート巡礼 後志北東エリア／つくる人in岩内町 村本 剛／ジモトデザイン 小樽市・ミツウマ  
マチカド芸術 小樽市『炎』／ART FILE 桑迫伽奈

宮沢賢治が夢見た農民オーケストラを実現したい



●北海道農民管弦楽団・代表／牧野時夫(まきの・ときお)

1962年生まれ。北海道大学農学部卒業、同大学院修士課程修了。本州のワイン会社にてブドウの栽培・育種の研究後、1992年余市町に有機農園「えこふあーむ」を開設。ブドウを中心に数百種類の果樹・野菜を無農薬で栽培している。1994年に北海道農民管弦楽団を設立し、代表、指揮者、作、編曲も行っている。2024年にNPO法人 余市農芸学舎を設立。代表理事・校長を務める。

を弾き、農家の人々と音楽を楽しみ、農民オーケストラの結成を夢見ていました。しかし、病に倒れ、その活動はわずか2年ほどで終わってしまう。いつしか私は、高沢賢治が叶えられなかつたその夢を、現代の農業に合った形で実現したいと考えるようになります。

のワイン会社に就職しましたが、「北海道」で農業をやりたい、オーケストラを続けたい、「いい」という思いを叶えるため、宮沢賢治が教師を辞め、宮沢賢治が教師を辞め、余市町の離農することになつた農家を引き継ぎ、就農しました。オーケストラを作るのは10年近くかかる覚悟していたのですが、就農して3年目の1994年に余市町で開催された「日本有機農業研究会」北海道

時代に知り合ったフルート奏者や、北大オケ時代の先輩に再会し、農民オーケストラを作りたいね、という話に花が咲いて。知人に声をかけたり、新聞にも取り上げられたりおかげで、50名近いメンバーが集まりました。演奏会は翌年の1月15日。「日本有機農業研究会」北海道グループの総会に合わせて午前中に札幌芸術の森で行つた演奏会では、ベートーヴェンの交響曲第6番「田園」

**牧野** 両親が音楽好きで、バイオリンやピアノは幼少期から習っていました。初めて参加したオーケストラは、スケールの大きな自然に憧れて、山梨県から北海道大学に進学した際に出会った北海道大学交響楽団です。以来、音楽漬けの生活を送るようになりました。

牧野　生態学に興味を持つていまいした。しかし、自然環境に最も大きな影響を与えていたのは、農業ではないかと考えた結果、「有機農業」に関心を持つようになりました。環境を壊さない農業のあり方を考えた結果、「有機農業」を選択しました。

は「宮沢賢治」との出会いがあ  
りました。彼は花巻農学校の  
教師という安定した生活を  
自ら手放し、農耕生活を送  
りながら、付近の農民を集め  
て農業や化学、芸術について  
教えていました。その時の講  
義用に書かれたのが『農民芸  
術概論綱要』です。この芸術  
論のなかで、彼は「農民こそ  
が芸術をやるべきだ」と語っ  
ています。読み込むうちに、  
宮沢賢治という人間の生き  
方そのものに強く惹かれてい

A photograph of a music room where a group of people are gathered, possibly a band or orchestra. In the foreground, a man in a blue shirt is seated at a desk, looking down at some papers. Behind him, several other people are seated at desks, some with laptops and papers. The room has wooden walls and doors. On the left side of the image, there are three stylized musical notes (two red, one pink) floating in the air, accompanied by a white curved line.

宮澤賢治が『農民芸術概論綱要』で述べた理想に基づき、彼が果しえなかつた夢を現在に蘇らせる試みで、「鍬で大地を耕し、音楽で心を耕す」をモットーに活動するアマチュアオーケストラ。1994年の創立以来、北海道在住の農家、および農業関係の仕事に携わる音楽愛好家が、農閑期に一堂に会して演奏会を行っている。

<http://farmoke.web.fc2.com/>



北海道農民管弦楽団

## 牧野時夫(北海道農民管弦楽団・代表)interview

# 北海道農民管弦楽団 音楽で心を耕す三十年の軌跡



農閑期に練習をして年に1度の演奏会を開く農民オーケストラ「北海道農民管弦楽団」。『鍵で大地を耕し、音楽で心を耕す』をモットーに音楽活動を続ける同楽団は2024年に創立30周年を迎えました。農業と音楽と向き合い続ける代表・牧野時夫さんに話を伺いました。

# 生活のための演奏ではないゆえの自由な表現



ジョイントコンサートは2025年2月2日(日)に開催。1200名を超える動員を記録し、大盛況の中で幕を閉じました。2026年の演奏会は、空知管内深川市での公演を予定しています。

**牧野** 確かに、音楽は衣食住に直接関わるものではありませんが、北海道農民管弦団として、今後の目標などはありますか？

30周年という区切りを迎えたが、北海道農民管弦団として、今後の目標などはありますか？

**牧野** 現在、私たちのメン

ロング版  
インタビューを  
WEBで公開中



# 東北農民管弦楽団立ち上げのきっかけ



2025年の演奏会にむけて、2024年12月にKitaraの大リハーサル室で年内最後の練習を実施。道内各地からメンバーが集まり、牧野さんの熱のこもった指揮のもと、練習は続きました。

北海道農民管弦楽団は、結成当初から地方公演に力を入れてきましたね。初めての演奏でした。

牧野 地方の公民館や体育館などで演奏会を開くと、お客様の中には楽器演奏できる農家さんがいて、「私も参加したい」と手を挙げてくれることもありました。最初の10年間は、演奏をし

ながら地方在住の団員が増えいく日々もありました。この30年間で、道内約25市町村を巡っています。

2011年2月には、デンマーク公演も実現しました。農学園大学が取り持つてくられた縁で実現しました。私たちのオーケストラには、酪農学園大学の教職員や学生も多数在籍しており、その中には北大オケ時代の先

輩で、酪農学園大学の教授もいました。酪農学園大学は、デンマークの農業と教育システムを基に創立された大学です。海外公演は二つの夢でもあったので、その先輩にデンマーク在住の特任教授を紹介していただき、どんどん拍子で演奏会が決まりました。デンマークでは現地のアマチュアオーケストラとも共演し、とても有意義な時間を過ごしました。



デンマーク公演の1ヶ月後に起きた東日本大震災や

東北農民管弦楽団との関わりを教えてください。

**牧野** 宮沢賢治の故郷は岩手県花巻市です。東日本大震災は「音楽で、東北の力になりたい」と強く願った出来事でした。東北農民管弦楽団の代表・白取克之さんは、もともと北海道で農業実習をしていて、私たちの演奏会にも2回ほど参加していました。白取さんは実習後、故郷の青森に戻り就農しましたが、「東北にも

い」と相談を受けたんです。

我々も2013年1月に宮沢賢治没後80年記念と

して、花巻市での演奏会を企画していたので、そのタイミングで東北にも農民オケを立ち上げて一緒に演奏しませんか、と誘いました。それが、東北農民管弦楽団結成のきっかけです。花巻市での演奏会の翌日には、震災で甚大な被害を受けた陸前高田小学校でも演奏を行いました。

東北農民管弦楽団とは立ち上げ時から深く関わっていたのですね。

**牧野** 私は毎年、東北の演奏会に客演として参加していました。しかし、2019年末から新型コロナウイルス感染症が騒がれ始め、県境を越える移動の制限があ

り、東北農民オケは3年間の活動休止を余儀なくされました。その後、宮沢賢治没後90年にあたる2023年、直前で中止になってしまった花巻市の第九演奏会が3年振りに開催され、私も客演コンサートマスターとして参加しました。

コロナ禍は北海道農民管弦楽団の活動にも影響をもたらしましたか？

**牧野** 私たちは非常に運が良かつたのかもしれません。感染症の流行間もない2020年2月初めに開催した演奏会は、まだ行動制限がない時期だったため、中止せずに実施することができます。それ以降の3年間、感染者数に応じて制限が緩和されたり、厳しくなったりと波があったと思いますが、私たちの演奏会はいつも緩和のタイミング。結果として、演奏会は一度も中止することなく続けることができました。

コロナ禍や東日本大震災など有事の際には、文化芸術に対する風当たりが強くなことがあります。牧野さんはどう感じますか？

確かに、音楽は衣食住に直接関わるものではありませんが、たとえ音楽がなくなってしまっても、人は最低限の生活を送ることができるで

しょう。しかし、それは本当に「人間らしく生きる」と言えるのでしょうか。生命維持活動には関係のない文化芸術であっても、人間が生きるために大きな意味を持つ大切なものであると思いります。

北海道農民管弦楽団は創立30周年を迎え、今年の2月には東北農民管弦楽団とのジョイントコンサートが初めて実施されました。

**牧野** ジョイントコンサートは長い間実現したかったことの一つです。30周年という節目は良い機会でした。東北からは約50名の演奏者が来札し、北海道と合わせて約120人のオーケストラです。さらに、小学生を含めた合唱団も参加し、300名を超える大所帯になりました。

バード農業関係者ではあるけれど、農家さん自身は少ないんです。農民オーケストラと名乗る以上、農家さんが増えていくと嬉しいですね。土に触れているからこそ生まれる音楽つてあると思うんです。例えば、農村の風景にインスピレーションを得て生まれた田園交響曲を演奏する時、私は日々身近に感じていることを音楽として表現することができます。時折、音楽家の方から「うらやましい」と声をかけられることがあります。演奏ではなく、商業主義でもなく、ただ「好きだから」演奏をする。その純粋な動機があるからこそ、私たちの表現は何にもとらわれることなく、自由でいられるのです。

バード農業関係者ではあるけれど、農家さん自身は少ないんです。農民オーケストラと名乗る以上、農家さんが増えていくと嬉しいですね。土に触れているからこそ生まれる音楽つてあると思うんです。例えば、農村の風景にインスピレーションを得て生まれた田園交響曲を演奏する時、私は日々身近に感じていることを音楽として表現することができます。時折、音楽家の方から「うらやましい」と声をかけられることがあります。演奏ではなく、商業主義でもなく、ただ「好きだから」演奏をする。その純粋な動機があるからこそ、私たちの表現は何にもとらわれることなく、自由でいられるのです。

# 後志北東エリアで探すアート

## 08 景色の美しさと文学の奥深さを同時に味わう 崖っぷち書店



積丹半島の断崖絶壁に併む温泉「岬の湯しゃこたん」内の書店。「崖」にまつわる本(3冊セット)をタイトルのみで購入する一風変わった体験ができます。2025年4月、リニューアルオープン予定。

## 07 クオリティの高い流木アートが出迎える道の駅 道の駅オスコイ!かもえない



山と海に囲まれた自然あふれる道の駅で、神恵内村で獲れた魚介類を中心に水産加工品を販売中。注目は流木で作られたアートで、熊や鹿、犬など、さまざまな流木アートが随所に置かれ、来場者を楽しませています。

## 06 卓越した職人の技を感じる贊を尽くした客殿 鰈御殿とまり



道内の鰈番屋の中でも珍しい客殿を展示。麻模様の付け書院、横櫛樹の床柱など見所満載。なかでも廊下全面に施されている埋木細工は必見で、鶴・亀等の縁起物や島・船等の海岸線の景色が多数描かれています。

## 05 岩内町有形文化財1号の木造大仏 帰厚院



岩内最古の寺院で、高さ6.8m木造総金箔塗りの大仏は東京以北では最大といわれています。1月、8月を除く毎月第一月曜日の17:00～19:00は、毎回80人程が参加する「カレーの日」も開催しています。

## 09 2025年4月にオープンのたらこ尽くしの道の駅 道の駅「ふるびらたらこミュージアム」



日本初の「たらこミュージアム」として、たらこの世界観を丸ごと体験できるテーマパークのような道の駅です。ピンク色で統一された店内には、たらこアートやグッズ、たらこの歴史を学ぶ「タラコタイムマシーン」を展示しています。

**刺激がいっぱい  
後志北東エリアの  
アートスポット**

各施設の  
詳細は  
WEBで  
公開中



## 01 アートイベントやマルシェで賑わう複合施設 裏小樽モンパルナス



小樽の古い街並みを生かし、築100年の建物を含む3つの空き家を改修した複合文化施設。2025年5月にオープン一周年記念イベントと合わせて漫画家の工藤正樹、土田拓摩による二人展の開催を予定しています。

## 02 2000～1500年前の続縄文期に属する遺跡 フゴッペ洞窟

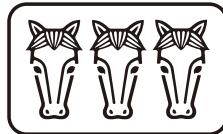


岩壁に800点を超すさまざまな刻画が残された貴重な遺跡。国内で壁画彫刻が見られるのは小樽市の手宮洞窟とフゴッペ洞窟のみで、シャーマンを表したものと推察される翼で仮装した人像などが多く描かれています。

## 03 音楽と星空を楽しむキャンプ場 ノチウアウトドアpark



「ノチウ」とはアイヌ語で星空の意味で、不定期で星空観察会を実施するキャンプ場。アウトドアと音楽の融合、地域活性化の取り組みとして、音楽フェスを実施するなど、多彩な楽しみを提供しています。飲食スペースも充実。



株式会社  
**ミツウマ**

▶最近店頭に並ぶアパレル商品のラインナップも増えているが、こちらは昔から工場の作業員がかぶっている非売品の帽子。岡田さんいわく「社員は普段から見慣れているせいかも熱烈なファンはないですが(笑)、このマークは私たちにとって親しみや安心感を与えてくれるシンボル的な存在ですね」。



「強くて履き良い」という製品の  
イメージを3頭の馬に  
重ねたロゴマーク

1 919(大正8)年に日本  
初のゴム長靴メーカーとして創業した「ミツウマ」。同社は、小樽市民にとって地場企業の象徴的存在であり、市内の花園公園通りに架けられている「ミツウマ」のアーチ型広告看板は、街のシンボルとしても親しまれています。

のマークを付けたのが始まりといわれています。「三馬」の由来は、「馬の最も尊きを竜馬(りゅうめ)と名づけ、次を神馬(しんめ)、次を駿馬(しゅんめ)とす」という、中国故事に登場する「竜・神・駿」の三馬を表したもの。以降、時代に合わせてアップデートしながら、今日のデザインに至っています。

1930(昭和5)年、現在のミツウマが北海道ゴム工業から「三馬護膜工業」と改称した時に生まれたコーポレートマークが、通称・ミツウママークです。初代社長の中村利三郎が、大正中期に良質かつ丈夫な織物を「三馬印」と呼んでいたことにあやかって、ゴム靴の一級品に三馬	長い時を経て、大切に受け継がれてきたミツウママークですが、2000年代に入り「古くからのファンには高い知名度を誇っていたものの、若い世代へのアプローチができていないことが大きな課題を感じていました」と語るのは、同社総務部の岡田秀敏
--	---



▲花園公園通りのアーチ型広告看板

のマークを付けたのが始まりといわれています。「三馬」の由来は、「馬の最も尊きを竜馬(りゅうめ)と名づけ、次を神馬(しんめ)、次を駿馬(しゅんめ)とす」という、中国故事に登場する「竜・神・駿」の三馬を表したもの。以降、時代に合わせてアップデートしながら、今日のデザインに至っています。

長い時を経て、大切に受け継がれてきたミツウママークですが、2000年代に入り「古くからのファンには高い知名度を誇っていたものの、若い世代へのアプローチができていないことが大きな課題を感じていました」と語るのは、同社総務部の岡田秀敏さん。どうにか若者にア

の節目の年(2019年)でした。 帯広のばんえい競馬場にボップアップストアを展開し、その日のメインレースのスポンサーになるなど、競馬ファンにも徐々に広がりを見せているミツウママーク。さらに現在は海の磯焼け対策の取り組みとして、ウニの殻を再利用するに温めざるウニ殻肥料



▲昔ながらの黒長靴「艶半長並底」。

さん。どうにか若者にアピールできないかと考えていた中で、風穴をあけてくれたのは過去にミツウマを取材したテレビディレクターでした。「彼が独立した時に、『最初の仕事は、一番やりた



の試験を実施。その新事業のブランドマークとして、ミツウマをもじった「ミツウニ」というネーミングとマークを発案し、SNSで話題になっています。さらに、直営のECサイトをリニューアルし、ミツウマの歴史や馬マークを生かしたサイト作りも計画中。3頭の馬が小樽から世界への、のびやかに駆け出していく未来が楽しみです。

**岩** 内町のギンザ通り商店街の一角に店舗兼工房を構える「村本テント」。丈夫で機能的な帆布バッグは、幅広い世代に愛されています。創業は1911(明治44)年。開拓時代を支えた馬具店として産声を上げ、運搬の主役が馬から車へと移り変わると、馬具屋で培った縫製技術を活かしてトランクや船のシートを手がける「ント屋」に業態を転換しました。「バッグづくりを始めたのは2代目の私の祖父です。農業や漁業、建設車輛に卸していたシートやカバーの受注は冬が閑散期。通年で出来る仕事はないかと模索した末に生まれたのが、現在もお店の定番として並ぶ「ト生地で作った山菜リュック」です。耐久性と収納力が評判で、近隣の宮林署にも納めていたそうです」と話すのは、村本テント4代目、村本剛さん。剛さんの父であり3代目の憲次さんは帆布でバッグをつくり始め、オーダーメイドも受注するようになり、その知名度を上げていきました。 「父は私に店を継がせようとは考えていないかったし、私は



村本 剛

岩内町生まれ。札幌でのサラリーマン生活を経て、2009年

自身も意識したことばなかつたんです」と振り返る剛さんは、札幌の電気工事関連の会社に就職し、営業職として10年間働いていました。転機が訪れたのは、帰省中に商店街で開かれた「手作り市」を手伝ったこと。「前職は工場で作られた製品の販売でしたが、自分の手で作った製品を、自ら自信と責任を持って売る」という魅力に気づいてしまったんです」。

家業を継ぐために剛さんが岩内町に戻ったのは16年前。ミシンの扱いも初めてでしたが、シートやカバーの修理を通して技術を身につけていきました。帰郷から2年目に憲次さんは他界。ともに仕事をしたのは、ほんの1年弱でした。「シートや帆布バッグはほとんどがフルオーダー。お客様の要望に応えながら、技術を磨いていきました」と話します。

現在、製作は母親と剛さ

◆帆布バッグの原点「重成バッグ」。若児さんが高校教師・重成先生から憲次代に合わせて改良を重ねながら、現在も人気商品の一つとして店内に並びます。

A photograph showing a row of six guitar cases hanging vertically from a horizontal rod. The cases are made of different materials and colors, including tan, brown, and grey. To the right of the cases, there is a small decorative object with a red heart-shaped ornament hanging from it.

DATA

株式会社ミツウマ 小樽市奥沢4丁目26番1号 TEL 0134-22-1111 <https://www.mitsuumma.co.jp>  
ショッピングミツウマ楽天市場店 <https://www.rakuten.co.jp/auc-mitsuumma/>





## 最後に残った線は記憶の残響

### 物

心がついた頃から絵や  
ものづくりが好きだった  
私が、美術の道を本格的に意識  
したのは高校3年の秋。当初は  
デザイン系の大学を希望し、美  
大受験予備校でデッサンを学ん  
でいましたが、絵を描くことが面  
白くなり、進路を変更して北海道  
教育大学の美術コースを受験し  
ました。

大学1年目の秋、東京の国立  
西洋美術館で『アルブレヒト・  
デューラー展』を見て、「版画とい  
えば木版画」としか思っていな  
かった私はデューラーの銅版画  
に心を奪われ、版画を専攻。大  
学では、写真や現代美術、デザ  
インなど他分野の授業も受ける  
ことができ、特に現代美術の授  
業では、〈絵画専攻は平面作品  
しか作ってはいけないのか〉、〈素  
材や制作方法は安易に選んで  
いいか〉。楽だから、簡単だから  
ではいけない〉、〈作品のサイズ  
はそれがベストなのか。制作ス  
ペースの問題でサイズが小さく  
なってはいけない〉など、多くの学  
びを得、卒業して10年以上経っ  
た今でも戒められるような気持ち  
になります。

学生時代に作品制作のため  
に、アルバイト代で一眼レフカメ  
ラを購入。自分の目では捉えきれ  
ない細部を掘り下げるのに写真  
はとても有効だと気づきました。  
写真に興味を持つようになったとい  
うよりは、気がついたらカメラが私の記憶  
と眼の補助をしていた、とい  
う感覚です。

「after the rain」  
2020年の初個展での展示作品で刺繡写真最初期。

受けたの写真講座で「写真に手  
を加えた方が思い描いていたイ  
メージに近づくかも」と気づき、ペ  
ンや筆でのドローイング、写真を  
貼り合わせるコラージュなどを試  
みるきっかけでした。

私も「糸」という素材と「縫う」という  
行為にたどり着きました。最初の  
作品が完成した時、べらべらの  
紙だった写真にぐぐぐと血が流  
れ出したような感覚になり、ラテ  
ン語で動脈を意味する「arteria」  
と名付け、以降、刺繡写真の作  
品は全てシリーズ「arteria」とし  
てまとめています。

私は、「抽象的な写真を撮る作  
家」「写真に刺繡する作家」と思  
われるがちですが、今回の個展  
『浮遊する光、残響』は、布に刺  
繡をした作品のみで構成してい  
ます(写真上)。

シリーズ「arteria」では写真に  
沈む線、浮遊する線を針と糸を  
使って掬い上げたり強調したり  
することに重きをおいていました  
が、「その線だけになったときそれ  
はどんな景色なんだろうか」と考  
えたことが刺繡のみの表現を試  
みるきっかけでした。

私の記憶の中の景色、カメラで  
記録した景色、そこから抽出され  
た線が混ざり合い、反響し合い、  
最後に残った線は“残響”的よう  
だと思いました。

### ア

私の作品では、どんな場所で  
何を見たのかが重要ではありません。  
そこから残った微かな気配  
を通して、別の新しい景色に出  
会ったり発見があれば良いなと  
思っています。

### 桑 迫 伽 奈

北海道札幌生まれ、札幌在住。北海道教育大  
学岩見沢校美術コース卒業。写真をベースと  
した作品制作を行う。主な作品に、目で見た  
景色と記録された景色の差異に興味を抱き  
制作している刺繡写真シリーズ「arteria」  
や、北海道をはじめとした日本国内の様々な  
土地の森で撮影し、「見ている景色の不確か  
さ」や「自然という言葉の定義」について考察し  
たシリーズ「不自然な自然」など。  
●<https://kanakkuwasako.com>

入場  
無料

### 北海道文化財団アートスペース企画展 vol.59

#### 桑迫伽奈『浮遊する光、残響』

2025.2.18～4.25 9:00～17:00 ※土日祝休館 ※都合により臨時休館する場合があります。  
場所／札幌市中央区大通西5丁目11大五ビル3F 問い合わせ／011-272-0501



詳しいSTORYはWEBで  
小樽の中心部に位置する小樽公園。桜の名所  
としても知られる市民の憩いの場に、1984(昭  
和59)年、小樽中央ライオンズクラブの25周  
年を記念して設置されたのが、小樽市ゆかりの  
版画家・一原有徳のモニュメント「炎」です。

## 財団事業インフォメーション(2025年3月)

## アート選奨K基金事業

## ●アート選奨

北海道文化財団では、磯田憲一氏からの指定寄附をもとに、アート選奨K基金を創設。本道の文化的振興発展において敬愛すべき役割を果たしたと認められる個人・団体に、「アート選奨K基金賞」を贈呈しています。

令和6年度の受賞者は、斎藤ちずさんに決定しました。(賞金10万円／記念楯)

**斎藤ちず**

(NPO法人コンカリニヨ理事長 演出家・プロデューサー)

1962年 愛媛県生まれ

1982年 北海道大学医学部進学課程入学

1985年 北大中退

2003年より現職



北海道大学在学中に北海道大学演劇研究会にて演劇を始め、1986年には札幌ロマンチカシアターほうぼう舎の創設に女優・会計係として参加。同劇団解散後1995年から演出活動とともにコンカリニヨのスペース運営開始。演出家としては年1～2作品をつくり、演劇ワークショップ講師活動も行う。またコンカリニヨ(1995～2002年)のホールマネージャーとして、ダンス公演やワークショップ、フェスティバルプロデューサーほか、多くの実績を収める。

まちとアートをつなぐ活動拠点となる劇場再建ための市民活動を展開し、2006年生活支援型文化施設コンカリニヨを再オープン。企画実施プロデューサーとして活動するとともに、社会的企業家と呼ばれ、劇場経営を行ってきた。

同法人では2004年～ターミナルプラザごとにパトス、2009年11月～あけぼのアート＆コミュニティセンター（ともに札幌市設置）の管理運営も担当する。

2026年夏には現職を退任予定。

平成19年度内閣府男女平等参画地域のチャレンジ賞受賞

## 人づくり一本木基金(長原賞・スチウレ・エング 人づくり基金)事業

## ●ものづくり一本木選奨

「人づくり一本木基金」の顕彰事業として、工芸美術及びものづくり等の分野における人材育成と創造活動の振興発展のため、道内在住又は道内出身者で、その向上発展に関し功績が顕著な個人及び団体等に「長原賞／地域貢献賞／奨励賞」を贈呈しています。

令和6年度は、有限会社高橋加工部が「地域貢献賞」を受賞しました。

## ◎地域貢献賞(賞金30万円／記念楯)

有限会社高橋加工部(帯広市／代表取締役社長 高橋敏文)

帯広市に所在する建具や家具を製作する企業。1897(明治30)年に設立された高橋木工場を前身とし、1951(昭和26)年に加工部門として独立、事業を開始。

社員には技能検定受験や技能五輪への出場を積極的に後押しするなど、地域のものづくり人材の育成に大きく寄与している。

## 募集中の事業

## ●令和8年度アートシアター鑑賞事業 公演企画の募集

「アートシアター鑑賞事業」では、道内外の優れた舞台芸術の公演を、道内の文化団体や市町村、市町村教育委員会、実行委員会等との共催により実施しています。この度、令和8年度に当該事業で実施する公演企画を募集しています。

応募された企画の中から、当財団が令和8年度に経費の負担等を行う企画を選定します。



応募期限:2025年5月2日(金)必着

応募条件や方法など詳細については、財団ホームページ「令和8年度アートシアター鑑賞事業 公演企画の募集について」をご確認ください。詳細はこちら▶https://haf.jp/news.php?n=279

お問い合わせ:公益財団法人北海道文化財団

☎011-272-0501(平日8:45～17:30)

## 開催予告

## ●北海道舞台芸術情報フェア2025

舞台芸術の公演企画の最新情報を道内の市町村や文化施設に提供し、次年度事業の検討に資するとともに、文化施設等と公演企画団体の相互連携を図ることを目的として、毎年「北海道舞台芸術情報フェア」を開催しています。2025年は、7月に開催を予定しています。

## ●北海道戯曲賞大賞受賞記念公演『迷惑な客』

第10回北海道戯曲賞大賞受賞作品『迷惑な客』(作:七坂稻)を、劇団サンブル主宰・松井周の演出により札幌で上演します。出演者オーディションも7月に開催予定。

期日:2025年11月15日(土)・16日(日)

会場:ジョブキタ北八劇場

## ●贊沢貧乏『わからうとはおもっているけど』

山田由梨主宰の劇団・贊沢貧乏による初の北海道公演。2019年初演、2022年にパリ公演で好評を博した作品『わからうとはおもっているけど』を上演します。



©Kengo Kawatsura

期日:2025年12月13日(土)・14日(日)

会場:クリエイティブスタジオ(札幌市民交流プラザ3階)

※開催予告のものについては詳細が決まり次第、財団ホームページ(https://haf.jp/)でお知らせします。

INFO



WEBマガジン「北のとびら」。冊子にはない情報も!ぜひご覧ください。

WEBマガジンはこちらから!

https://haf.jp/kitanotobira/